

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立尾長小学校	校長氏名	福馬 亮	生徒指導主事氏名	堤 信之
-----	-----------	------	------	----------	------

**取組事例名 『クリーンマイタウン二葉』**

**取組のねらい 『地域を大切にしようとする心を育む・小・中学校のつながりを強化する』**

本取組のねらいは、「地域を大切にしようとする心を育むとともに、小・中学校のつながりを強化し、小学校から中学校への学校生活が、より円滑に移行できること」を目指したものである。

(平成 27 年度 まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業)

**取組の具体的内容 『共同清掃作業』**

中学校区の小学校 6 年生と中学校 2・3 年生で構成する小グループごとに清掃場所（(例) 地域の公園、集会所、神社、陸橋、区役所、保育園、小学校、中学校、道路など）を割り当て、児童・生徒が協力しながら保護者や地域の方々と一緒に清掃活動を行う。



打ち合わせをしている様子



作業の様子



作業の様子

**取組の課題・創意工夫 『自主性』**

自分達が日々生活している地域の清掃活動をすることで、地域を大切にしたいという思いを持てるような活動にしていかなければならない。また、保護者や地域の方と一緒に活動することで、自分達が地域の方々に支えられて日々生活していることに気づかせたい。保護者や地域の方から声をかけられることで、「つながり」を形成していくようにする。小学生は中学生に比べ、活動への当事者意識が低い。当事者意識をもたせるための事前指導の充実（内容、時間確保）が課題である。

**取組の成果（効果） 『つながりの形成』**

清掃活動をしていく中で、中学生が小学生に教える場面が見られる。「つながり」ができることで、安心して地元の中学校に進学することができる。また、地域の保護者の方からの評価によって、子どもの自尊感情が高まり、様々な活動に積極的に取り組もうという意欲につながる。共に活動することで、「安心感」と「つながり」が生まれてきている。

## 今後の展開『共通理解』

中学校区の学校，地域，保護者で活動をするために，事前に綿密な打ち合わせを行う必要がある。確かな共通理解の上で活動を行えば，より効果的な活動ができると考えられる。また，子どもたちへの事前指導を具体的，丁寧に行えば，活動の意義や意図を理解した上でより積極的な活動ができると考えられる。

## 他校へのアドバイス『連携は人』

「連携は人」である。担当者との「つながり」（関係づくり）が，組織連携の効果を左右する。担当者との「つながり」を築くためには，何度も足を運ぶことが大切である。繰り返し，繰り返し足を運ぶことで，少しずつ関係ができてくる。何度も顔を合わせ，語り合うことで，学校の思いや考えを少しずつ理解してもらえるようになる。同時にこちらも関係機関の思いや考えを理解する努力をすることが大切である。一方的に依頼するのは，連携ではない。組織相互の思いを理解し，共有し，尊重することが真の連携につながっていくと考えている。